

令和 7 年 2 月 25 日

保護者の皆様

加古川市立野口北小学校
校長 小宮 美和

学校アンケートの結果について

向春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。平素は本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、先日は「保護者アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。皆様のご回答と子どもたちに行った「児童アンケート」の回答がまとまりましたので、お知らせいたします。なお、項目ごとの詳しい結果については、ホームページに掲載させていただきますので、そちらもあわせてご覧いただきますようお願いいたします。ここでは、特徴的な項目についてお知らせいたします。

学校ではさらに結果を分析し、今後の指導改善に取り組んでまいります。

「よく考える子」の育成

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」
を肯定的回答としています

- 『「考える」「対話する」「表現する」学習（協同的探究学習を核とした授業）への取組』については、今年度は『表現することを通して学びを深める子どもの育成 ―協同的探究学習と ICT を活用した授業づくり―』を研究主題に設定し、全教員で研究に取り組みしました。成果として自分の考えに対して根拠や理由を明確にして説明できる子どもが増えており、保護者から 95.7%、児童から 88.4% の肯定的回答を得ることができました。今後もこの取組を継続させ、「わかる学力」の育成を推進していきます。
- 「学校は子どもの課題（学習・生活）を明確にし、個に応じた指導に努めている」という項目では、肯定的回答が 93.3% と、昨年度より 5% 増えています。これは 1 学期と 2 学期に個人懇談を行い、児童の様子を保護者に詳しく伝えることができたためではないかと考えています。今後も一人一人をよく見て個に応じた指導に努めていきます。
- 『読書習慣の確立』については、「本を読んでいる」と肯定的回答をした保護者が 50.2%、児童が 75.2% となり、数値的には目標を下回っていました。読書によって教養や知識が身についたり想像力が豊かになったりするのはもちろんのこと、語彙や表現の幅も広がり、これらのことが会話力や文章力の向上にもつながっていきます。読書時間の確保や読書貯金の取り組み、電子図書館の活用等、学校でも読書の習慣化に取り組んでいますので、ご家庭でもご協力いただきますようお願いいたします。

「助け合う子」の育成

- 「友だちと仲良くして、楽しく学校生活を送っている」と肯定的回答をした児童は 96% でした。めざす児童像「4 つのかぎでだれもが行きたくなる学校」の実現に向けて、楽しくないと感じている子どもの気持ちをしっかりと受け止めて、一人でも多くの子どもが居心地良く感じ

られる学校・学級づくりをめざします。

- 「自分の思いや考えを相手に正しく伝えることができる」という項目では、肯定的回答は保護者が78%、児童が81.2%と、保護者・児童とも低い結果となりました。児童の「自分で解決できないことは、先生や友だちに相談することができる」という項目の肯定的回答も84.8%で、他の項目に比べ低くなっています。この結果を重く受け止め、改善策を検討するとともに、今後も対人関係のスキルを身に付ける学習など具体的な指導を継続して行い、いじめやトラブルの未然防止となるよう努めていきます。

「やりぬく子」の育成

- 『自己肯定感・自己有用感を育む活動の充実』については、「学校は、子どものよいところをほめ、自信をもたせるように努めている」と肯定的回答をした保護者が95.8%、「目標をもってがんばっていることや自信をもっていることがある」と肯定的回答をした児童が90.3%、「委員や係、当番（日直、そうじ、給食）などの自分の役割をきちんと果たしている」と肯定的回答をした児童が95.7%となりました。子どもたちが自分の役割を果たすことを通して自分のよいところに気づき、自信をもって行動できるように、今後も支援していきたいと思います。
- 『学習規律・生活規律の徹底』については、保護者からは「学校は、きまり（学習・生活）やマナーの指導を行っている」と90%、教職員からは「学習規律や生活規律等の学校のきまりやマナーの指導を行っている」と100%の肯定的回答を得ています。しかし、児童の肯定的回答は「授業中は学習の約束を実行することができている」では88.2%、「廊下や階段を歩いたりトイレのスリッパをそろえたりするなど、学校のきまりやマナーを守っている」では91.3%となっており、学校のきまりやマナーが児童全体に行き届いていないことがわかります。今後もなぜきまりやマナーがあるのかを考える機会を設け、子どもたちの自治的・自発的な学校生活の見直しと、発達段階に応じた具体的な指導を行っていきます。

「たくましい子」の育成

- 「自分から元気よくあいさつをしている」と81.6%の児童が、「家庭や地域で自分からあいさつや会釈ができる」と75.8%の保護者が、肯定的な回答をしています。どちらも去年度より数値が減少しています。警備員さんや交通指導員さん、地域の方からあいさつをされても、あいさつを返さない児童も見かけられます。あいさつ運動等の取り組みにより、児童のあいさつへの意識を高めていきたいと思います。
- 「地震や火事などのいざという時には、安全な行動をすることができる」と肯定的回答をした児童は95.4%でした。防災の意識が身についてきていると思われます。「自分の命は自分で守る」を合言葉に、今後も様々な場面を想定して訓練を行うなど、安全を第一に考えた行動ができるように防災教育を推進していきます。
- 「早寝・早起きなど、熱中症になったりかぜをひいたりしないように、健康に気をつけて生活している」の項目に【あてはまる】と回答した児童が、昨年度は80%だったのに対し今年度は89.6%と増加しました。全校で「ヘルスアップ週間」に取り組んだことにより、意識することができたためではないかと思います。引き続き、基本的生活習慣の見直しについて啓発活動を行っていきます。